

2 野 菜

項 目	作 業 内 容																																						
<p>(1) 果菜類の定植</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果菜類の定植 ○いちごの栽培管理 ○なすのバンカー栽培 <p>5月は、露地（雨よけ）果菜類の定植時期となる。この時期の天気は、数日の周期で変わることが多いので、苗の生育や気象情報に留意し、適期に定植できるよう早めの本ぼ準備を行う。また、定植にあたっては晩霜に注意する。</p> <p>ア ほ場準備</p> <p>作付けするほ場は、耕土が深く、保水性、排水性の良い場所を選び、あらかじめ完熟堆肥等を施用して深く耕しておく。</p> <p>また、表1を参考に土壌改良資材を施用し、土壌pHを適正範囲に整えておく。</p> <p>各作目の畝幅及び株間、基肥の施用量は、表2を目安とする。マルチは、定植前までに条件の良い日を選んで張っておく。</p> <p>表2 果菜類の種類と栽植密度、基肥の目安</p> <table border="1" data-bbox="469 1294 1401 1509"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">畝幅 (m)</th> <th rowspan="2">株間 (cm)</th> <th rowspan="2">条</th> <th colspan="3">基肥 (kg/10a) ※</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>カリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1.5</td> <td>70~80</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>なす</td> <td>2.0</td> <td>60~70</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>トマト (雨よけ)</td> <td>1.8</td> <td>50~60</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>1.4</td> <td>50~60</td> <td>1</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※施肥量は愛媛県施肥基準による（成分量）</p> <p>イ 定植</p> <p>天気の良い暖かい日を選んで定植する。定植適期の苗は、きゅうりでは本葉3枚程度、なす、トマト、ピーマンでは1番花(房)の開花始めを目安とする。植え付けは根鉢を崩さないよう丁寧に行い、深植えにならないようにする。定植後は速やかに仮支柱を立て、十分に灌水して活着を促す。</p>	種類	畝幅 (m)	株間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) ※			窒素	リン酸	カリ	きゅうり	1.5	70~80	1	20	30	18	なす	2.0	60~70	1	20	20	18	トマト (雨よけ)	1.8	50~60	2	15	20	15	ピーマン	1.4	50~60	1	18	15	14
種類	畝幅 (m)					株間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) ※																															
		窒素	リン酸	カリ																																			
きゅうり	1.5	70~80	1	20	30	18																																	
なす	2.0	60~70	1	20	20	18																																	
トマト (雨よけ)	1.8	50~60	2	15	20	15																																	
ピーマン	1.4	50~60	1	18	15	14																																	

表1 野菜の種類と好適pH

種類	好適pH
きゅうり	5.6~7.0
なす	5.5~7.0
トマト	6.2~7.0
ピーマン	5.5~6.0

項 目	作 業 内 容
(2) いちごの栽培管理	<p>ア 高設栽培の給液管理 いちごの高設栽培では、おおむね5月末頃まで収穫が行われるが、気温や日射量の上昇に伴って吸水量が増加するため、定期的に排液量を確認し、培地が乾燥しないよう給液回数や時間を調整する。培地量の少ない高設栽培システムでは、特に注意する。</p> <p>イ 品質低下の防止 (ア) 高温期には果実品質が低下しやすいので、採り遅れないよう注意し、過熟果、黒ずみ果、ズルケ果を混入しないようにする。 (イ) 果実温度の低い早朝に収穫するとともに、予冷を徹底し、パック詰めを行う。 (ウ) 摘果の徹底により、終盤まで大玉生産に努める。 (エ) アザミウマ類の被害果を防止するため、花をよく観察して薬剤防除を行うとともに、ハウス内外の除草に努める。</p> <p>ウ 親株床の管理 良く揃った子苗を多く確保するには、4月下旬までに発生したランナーを除去し、5月以降に発生するランナーから子苗を採苗する。土壌が乾燥したり、親株が肥料切れすると、ランナーの発生が悪くなるので、適宜、灌水や追肥を行う。親株の古葉や枯葉、病葉、花房等は随時除去するとともに、炭疽病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の防除に努める。</p> <p>エ 採苗（鉢受け） 太く充実したランナーを選んで、本葉1～2枚の子苗をポットに受け、クリップ等で固定する。鉢受け後、培土が乾燥していると活着が遅れるので、灌水チューブ等により随時灌水を行う。ランナーの切離しは、最終鉢受けの10日～2週間後、ポットの底穴に根が達した頃を目安とする。</p>
(3) なすのバンカー栽培	<p>なすのほ場の外周にソルゴーを播種するバンカー栽培(写真1)は、土着天敵を増殖させ、なすの害虫であるミナミキイロアザミウマやアブラムシ類の密度を低下させ、防風の効果もある。</p> <p>ソルゴーの播種は、晩霜のなくなる5月上旬頃に、なすのほ場の周囲(なすから1～2m離れたところ)に1～2条の条播とする。</p> <p>必要なソルゴーの種子量は、なすほ場10aに対し200～400g程度である。基肥は無くてもよいが、生育が悪い場合は、株元に化</p>

項 目	作 業 内 容
	<p>成肥料を適宜施用する。5月上旬に播種すると、8月には1.5～2m、9月には2～3mの高さになる。9月下旬頃には開花するが、花粉でなすの果実を汚すため、出穂期に速やかに穂を刈り取る。また、強風時には倒伏する恐れがあるため、あらかじめ杭を打ち、マイカー線等で補強するとよい。</p>  <p>写真 なすほ場に植えたバンカー植物（ソルゴー）</p>

(作成 農林水産研究所)